

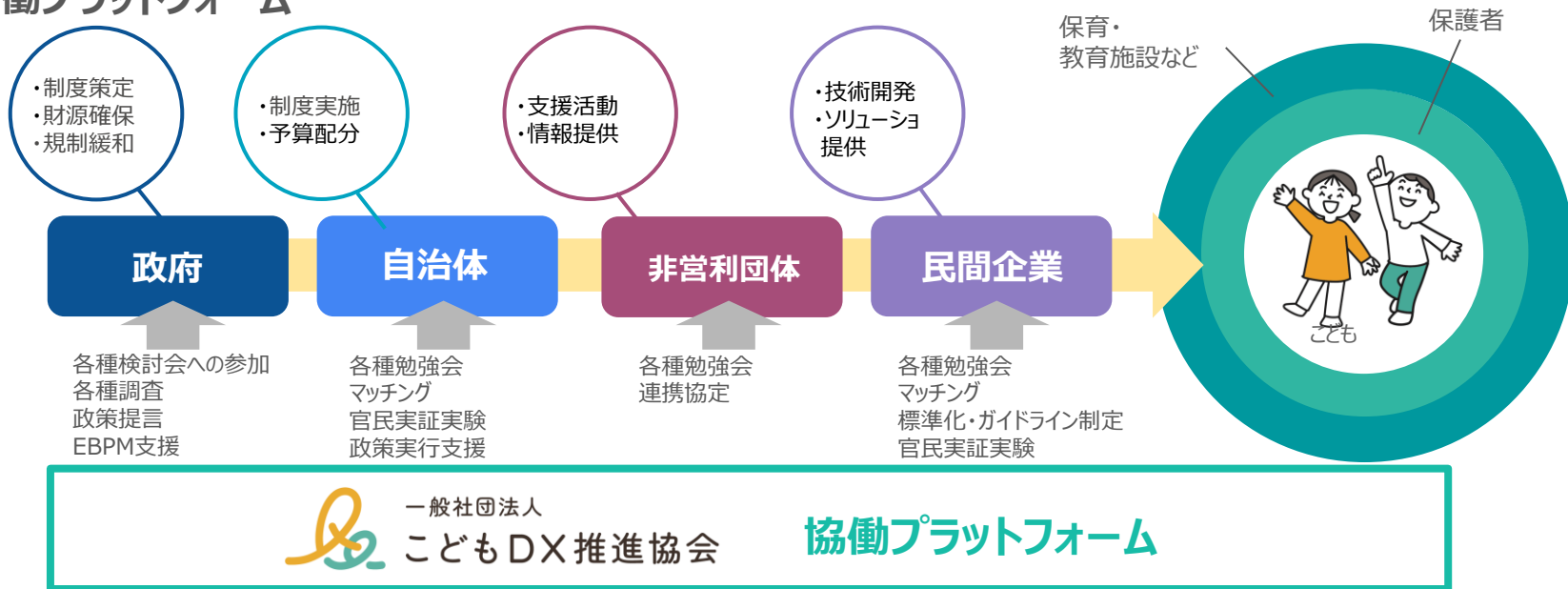
東京都のつながる子育て推進の さらなる進歩に向けて

一般社団法人こどもDX推進協会 代表理事

高石 尚和

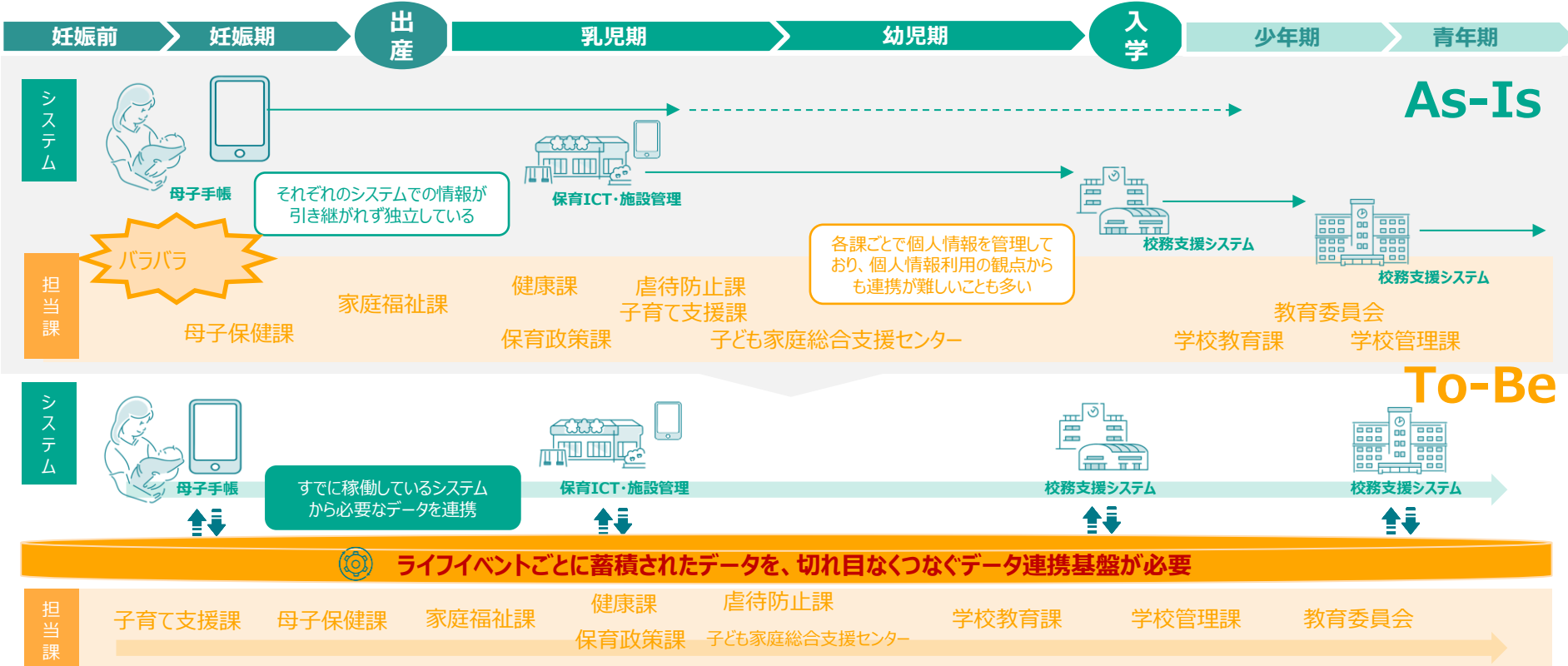
政府や自治体、業界団体、民間企業が、それぞれの立場や役割を尊重しながら、子育てや保育・教育の充実に
向けて、協力・連携できる体制 = **協働プラットフォーム**の整備を進めます。

協働プラットフォーム

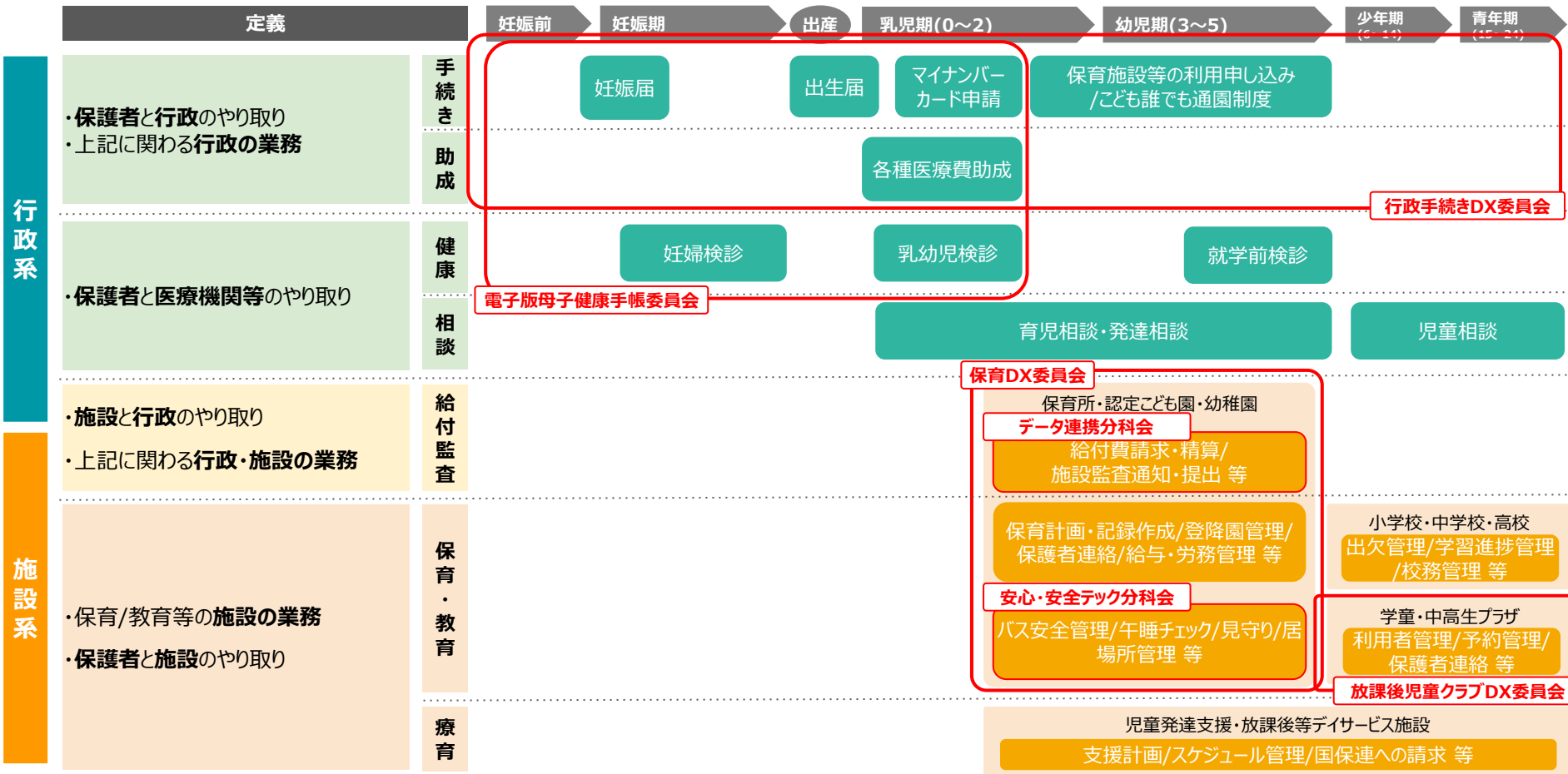


多様な主体が、ライフイベントごとにバラバラに子育て支援サービスを提供

子どもの成長過程に応じて、多様な主体が、それぞれで対象家庭・児童の情報管理システムを利用しており、情報が引き継がれていない。行政側も、自治体担当課ごとに分かれており、自治体内・自治体間・官民で個人情報連携が難しい。



行政所管分野ごとの専門性を持つ民間DXベンダーが、協働して助言・提言



民間事業者としての振り返り

- 「こどもDX2025」立上げ時から、多数の民間事業者が参画し、プッシュ型子育てサービスや保活ワンストップ等を通じて、新たな都民サービスの創出・変革に共に挑戦
- 制度・業務とデジタルサービスの3者が、フラットに議論する場が生まれたこと自体が大きな前進・イノベーション
- デジタルサービス利用者に最も近い立場で特に重視している点
 - **UI/UX**：様々なリテラシーの利用者にも迷わず使える画面設計・導線、アクセシビリティ
 - **ワンストップ化**：情報収集～申請～受給までが分断されない連続したサービスの利用体験
 - **安全性**：個人情報保護、認証・権限管理、障害発生時の迅速な対応・情報共有体制

今後の論点と協会の役割

- 引き続き、切れ目ない子育て支援には、行政・現場・民間の絶え間ない連携と強化が不可欠
- ライフイベントをまたぐ支援のカギとなる論点
 - システム間の相互運用性（データ項目・インターフェースの標準化など）
 - 個人情報保護とデータ利活用の両立
- こどもDX推進協会として
 - 政策・制度運用を理解しながら、民間の知見・エビデンスを集約し改善に生かす
 - UI/UX・業務効率化・安全性の観点から、具体的な改善提案を、継続的に提示
 - 利用者と行政をつなぐプラットフォームとして、「安心・便利な子育て支援サービス」の実現に貢献